

持続可能な建設業に向けた環境整備検討会  
ヒアリング資料

正栄工業株式会社  
(令和4年9月5日)

説明補助資料（受注者：下請企業）

【企業概要】

- ・ 正栄工業株式会社（資本金：30,000千円）
- ・ 鉄筋工事業一式、鉄筋圧接工事、鉄筋溶接工事
- ・ 年間売上げ 2,483百万円
- ・ 従業員数 42人、うち直接雇用する技能者31人
- ・ 直接雇用する技能者数及び全従業員数に対する割合 73.8%

【資材価格の変動】

- ・ 昨今の資材価格の大幅な変動を受けて、受注者として、どのように対応をしているか。また、発注者側に、どのような対応を期待しているか。
- 請負金額の変更が認めてもらえないのが常のため、各下請層で飲み込み。
- 変動のたびにお願いの日々。
- 指値“的”な請負額提示を変えてほしい。

（対応策）

- 許容範囲を決めて変動させる仕組みが必要

【重層下請構造】

- ・ 重層下請構造に関し、現状、どのような構造となっているか。また、今後、どのような姿を目指しているか。
- 基本は、3次までが現実
- 解体は、かなりの重層化が見受けられる。

○ 「応援」の仕組みをどう評価するかで変わる。

※指揮命令系統下で判断するのか？

※請負金額の流れで判断するのか？

(今後)

○ 業種により濃淡が異なるので、業種ごとの良し悪しを明確にし、これまでの歴史的背景を受け入れつつ、発注者の理解を得ながら次世代で改善を目指す。

#### 【技能労働者の処遇改善】

- ・ 技能労働者の処遇について、全産業平均や、製造業と比較して、労働時間は長く、休暇は少なく、給与は低い状況にあります（別紙検討会資料参照）。そのような現状をどのように見ているか。また、今後、どのようにしていきたい/どうあるべきか。

○ 現状をどう見ているのか。

#### 技能者側

※賃金が安い

※労働日数が長すぎる

※工期が短すぎる

#### 経営者側

※仕事量の繁閑により請負金額が変動するため、安定的な処遇改善に踏み切れない

※総価請負で経費込みにさせる商慣習が固定化

※元請けから法規制の厳格化などコンプライアンス重視の指導を受けるが、現場コストに変換する時点で、総価請負に全て込みとされ切り捨てられる。

※優越的な地位により下請を不当競争させる（元請け）

※営業確保のため不当廉売などに走る下請が多い

○ どうあるべきか

※通常必要と認められる原価に満たない金額の具体の基準を決める必要がある

※不当廉売などの下請自身が出す安い見積もりを取り締まる仕組み造り

※発注者からの理解を得るための処遇の可視化

◎第一段階は、日本国内の全産業と比較して賃上げすべだが、第二段階では世界的な賃金比較のもとに目標を設定すべき。

今後、労働力の外力比率が高くなるのは避けられないと考えられ、現状のままでは外国人から日本は選ばれない。

#### 【第1回検討会における委員から個別質問】

- ・ 技能労働者の賃金体系において、日給制と月給制は、どのような割合となっているのか。

○職種、地域や会社規模による高低差があるが、月給制は10%前後ではないか

○学卒求人を行う会社から月給制に移行している。